
非現実な俺の現実。

美海桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

非現実な俺の現実。

【Nコード】

N5726F

【作者名】

美海桃

【あらすじ】

魔術師の少女・ミリルによって異世界へ召喚された平凡な少年・修一郎。4日待てば元の世界に帰れるらしいんで、とりあえず観光しておく物語。

初日

テスト勉強していると、妙に部屋の片付けがしたくなるよなあ。

それで漫画とか夢中になって読んでしまったりして、後悔するわけ――

「修一郎、テスト明日でしょ？…なにやってんの」

部屋のドアにもたれる姉ちゃんの呆れ声に、俺は読んでいた漫画から顔を上げ、

「現実逃避」

ぼそりとつぶやいた。

途端に、姉ちゃんの平手が俺に炸裂。マジ痛え。

顔はいいのに暴力的だから26にもなって彼氏いない暦11年齢なんだよ、という言葉俺はぐっと飲み込み（火に油を注ぐってやつ）頬をさすりながら姉ちゃんを睨み付けた。

「あんた、やる気あんの？この間のテストだって最悪じゃん」

「世の中勉強だけじゃないと思うんだ、未夜」

「屁理屈言ってんじゃねーよ！しかも呼び捨てな！」

しゅばっ！と俺の手から漫画を奪い取り、姉ちゃんは仁王立ちになっであぐらをかいて座る俺を見下ろす。

…その気迫が怖いデース。

ナースの母ちゃんが夜勤の時、姉ちゃんは恐ろしい鬼へと姿を変える。今がまさにそう。

「進学校に入れたんだから、あんた勉強すればできる子なの。だから勉強しな、死ぬ気で。てか死ね」

「死ねと申しますか」

わぁお。

机に向かって黙々と勉強とか大嫌いだしさ、ましてや一夜漬けでなんとかなるもんじゃないと思うんだけど。今日の夜に隕石でもなんでもいいから何か降ってきて、学校爆発しねえかな…とか切実に願ってみたり。

「ほら、変なこと言ってないで、さっさと取り掛かれ」

「じゃあコンビニでお菓子買ってくる」

「なんで」

「勉強するなら夜食がないと」

そう言いつつ、逃げ出したいだけなんだけど。

姉ちゃんは明らかに不満顔。口をへの字に曲げて、腕を組んでる。

——こりゃ、作戦がばれた？

「いってきます」

俺は素早くベッドから財布を引いたくると、姉ちゃんの脇をすり抜け部屋を飛び出した。

姉ちゃんが後ろで騒いでるけど、気にしないでおく。無視。

（しばらく時間つぶして帰るか）

今は夜の10時。姉ちゃんも仕事があるしいつも1時までには寝てる。そんなくらいに帰ろう。

玄関の靴箱の上に飾ってあるガラスの灰皿から家の鍵をポケットに移し、準備万端で俺は家を出た。

「今ひま？付き合わね？」

『ひまじゃねーよ』

「なんでよ？」

『テスト勉強』

「えー。君は、アレかい。友情よりも大事だって言いたいのかい？」

『うん』

「……そっすか」

『おう。お前もさすがにヤバイじゃん。がんばれ』

「…ほどほどに」

『カンニングすんなよ』

「…」

なんて失礼なやつだ。

俺はチョコレートを噛みながら、通話終了の携帯電話をポケットの中に押し込んだ。

珍しく俺の友達みんなテスト勉強中。今回のテストは進級がかかっている大事なものらしいし、本当は俺も真面目にやんなきゃないわけ。

（だからって別に頑張る必要もないわけだけどさ）

毎日毎日、学校で勉強して家でも勉強しなきゃなんてやってらんないよな。一応、名門進学校への入学を以て親の期待に応えたわけだし――

「ほんと、何のために生きてんだろーな、俺」

暗黒の空に問い掛けても、答えが返ってくるはずもなく。俺は気恥ずかしさから思わず笑いを噛み殺す。

朝起きて学校行って帰ってきてテレビ見て寝る。たまに友達と遊ぶときもあるけど、毎日だいたいこんな感じ。趣味もやりたいこともない。

だらだら一日が過ぎていくだけ。

だったら勉強しとけて話なんだけど。

（何かすごいことが起きねえかな…宇宙人に遭遇とか、異世界へ旅立つとか）

漫画とかゲームの見すぎ？

でも——異世界とかに旅立って、すげえ刺激的な日常を送ってみたい。モンスターとかばっさばっさ倒したり、不死身の勇者になんかなったりさ。や、痛い俺。

「…だけどほんとにそういう世界があるんなら、行ってみてー！神様お願いします！わりと切実に！」

なんて。

俺は笑いながらも一度空を見上げた。

雲に隠れた白い満月がさぁと顔を出し、眩しすぎる月光が俺の体を輝かせる。——ん？

待て待て待て！？月ってあんなに白かったっけ？それにあんな大きくないだろ？なんで俺の体、透けてんだ——！？

混乱する俺。無理もないだろ、だって…空に浮かぶ月は規格外のでかで。目も開けられないほど白く輝いてる。しかも、俺の体が

月光に包まれて薄くなっていく！

地面に敷き詰められたレンガが透けていく足越しに見えるんだぞ。

平常心でいられる訳ねーよ！

慌てふためく俺の体は少しずつ夜の空気に溶けてるように消えて
——気が付けば、腰から下がぜんぶなくなっていた。

「うわっ！怖ッ！なんだってんだよ！」

無我夢中で手を振って、なんとか逃れようと藻掻く。けれども。

「うわああああ！」

一瞬。

目の前で光が爆発し、俺は情けない悲鳴を上げて——そこでぷつ
つりと意識を失ってしまった——

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5726f/>

非現実な俺の現実。

2010年10月28日05時47分発行